

[解答例]

英語〔前期A方式(1/29)〕

設問	解答例
I	① 1
	② 1
	③ 2
	④ 3
	⑤ 2
	⑥ 3
II	⑦ 4
	⑧ 1
	⑨ 2
	⑩ 2
	⑪ 4
	⑫ 3
	⑬ 1
	⑭ 1
	⑮ 4
	⑯ 3
III	⑰ 4
	⑱ 1
	⑲ 2
	⑳ 5
	㉑ 3
	㉒ 6
IV	㉓ 2
	㉔ 3
	㉕ 3
	㉖ 3
	㉗ 2
	㉘ 4
	㉙ 2
	㉚ 2
V	㉛ 7
	㉜ 3
	㉝ 7
	㉞ 6
	㉟ 8
	㊱ 4
	㊲ 6
	㊳ 2
	㊴ 5
	㊵ 2
	㊶ 2

英語〔前期A方式(1/30)〕

設問	解答例
I	① 1
	② 4
	③ 2
	④ 3
	⑤ 1
	⑥ 3
II	⑦ 3
	⑧ 4
	⑨ 2
	⑩ 3
	⑪ 1
	⑫ 2
	⑬ 3
	⑭ 4
	⑮ 3
	⑯ 4
III	⑰ 2
	⑱ 1
	⑲ 5
	⑳ 3
	㉑ 6
	㉒ 4
IV	㉓ 2
	㉔ 4
	㉕ 4
	㉖ 4
	㉗ 1
	㉘ 3
	㉙ 3
	㉚ 3
V	㉛ 3
	㉜ 7
	㉝ 6
	㉞ 5
	㉟ 8
	㊱ 7
	㊲ 5
	㊳ 4
	㊴ 8
	㊵ 3
	㊶ 3

英語〔前期B方式(1/31)〕

設問	解答例
I	① 4
	② 3
	③ 1
	④ 4
	⑤ 2
	⑥ 2
II	⑦ 2
	⑧ 3
	⑨ 4
	⑩ 6
	⑪ 1
	⑫ 5
	⑬ 1
	⑭ 6
	⑮ 4
	⑯ 3
	⑰ 5
	⑱ 2
III	⑲ 3
	⑳ 4
	㉑ 4
	㉒ 3
	㉓ 1
	㉔ 2
	㉕ 1
	㉖ 1
	㉗ 1
	㉘ 3
	㉙ 1
⑳ 4	
㉑ 1	
IV	㉒ 2
	㉓ 7
	㉔ 7
	㉕ 4
	㉖ 1
	㉗ 6
	㉘ 3
	㉙ 4
	㉚ 3
	㉛ 4
	㉜ 3
㉝ 2	

英語〔後期(3/8)〕

設問	解答例
I	① 4
	② 3
	③ 2
	④ 2
	⑤ 4
	⑥ 4
II	⑦ 2
	⑧ 1
	⑨ 4
	⑩ 6
	⑪ 5
	⑫ 3
	⑬ 5
	⑭ 2
	⑮ 6
	⑯ 1
	⑰ 4
	⑱ 3
III	⑲ 1
	⑳ 4
	㉑ 4
	㉒ 2
	㉓ 3
	㉔ 3
	㉕ 1
	㉖ 3
	㉗ 4
	㉘ 2
	㉙ 3
⑳ 1	
㉑ 2	
IV	㉒ 5
	㉓ 4
	㉔ 1
	㉕ 7
	㉖ 2
	㉗ 7
	㉘ 4
	㉙ 6
	㉚ 4
	㉛ 6
	㉜ 4
㉝ 4	
㉞ 1	

【解説】

英語〔前期A方式 1/29〕

I

文脈把握を中心とする長文読解問題。テーマは「染織家の暮らし」。

- (1)は文脈を把握して空所を補う問題。染織家である筆者の父は家業を維持するために引越を決めた。引越し先の周辺には染織工場がないと述べられているので、父は家業の未来に希望を見出していると考えられる。brightで「輝かしい」の意。
- (2)・(3)・(4)は本文中の語・表現の意味を問う問題。前後の文脈も正確に理解しているかが問われている。
- (5)・(6)は本文中の記述の内容として適当な、または適当ではない選択肢を選ぶ問題。(5)の①・④は第1段落第10文、③は第1段落第2文の内容と合う。②は第1段落第10文のand以下の内容と合わない、これが正解。(6)は第1段落第5～6文を照合する。

II

文脈把握を中心とする長文読解問題。テーマは「色を表す語」。

- (1)・(2)・(4)・(5)は下線部について同義になる選択肢を選ぶ問題や、空所を補う問題。空所や下線部の前後の文脈も正確に理解しているかが問われている。
- (3)は本文中の語句が示すものの例としてふさわしくないものを選ぶ問題。下線部を含む文から、ピンク、紫、グレーは基本色に含まれないことが読み取れる。
- (6)は内容一致問題が4問と問題文のタイトルをつける問題が1問。内容一致問題はそれぞれの選択肢のキーワードを本文中から見つけ出してその前後を正確に読み取り、適切な選択肢を選ぶ。タイトルは、その文章全体のテーマを示すものを選ぶ必要がある。正解は③。問題文で述べられている内容であっても、全体のテーマを示していないものはタイトルとしてふさわしくない。

III

会話文の空所補充問題。RyanとAnneの2人が、一人で出かけることについて話している場面。会話全体の文脈を押さえたう

えて、空所の前後を丁寧に読み取って、会話の流れに沿った1文を選択すること。

IV

- 標準レベルの文法・語法・熟語が問われている。
- (1) in case ~で「～するといけないので」の意。on condition (that) ~「～という条件で」は文意が通らない。そのほかの選択肢は副詞で、2つの節をつなぐことができない。
- (2) shed light on ~で「～を解明する」の意。
- (3) whenを入れて「私が集中しようとしているときは」とすると文意が通る。空所のあとが完全文なので、そのほかの選択肢は不可。
- (4) 後ろに動詞の原形が続き、「予想しているよりも」とすればよいのでwe'dが適切。to以下が真主語の形式主語構文。
- (5) despiteは前置詞で「～にもかかわらず」の意。
- (6) 空所以下はheardの目的語の名詞節。節内は補語がないのでwhatが適切。tillは前置詞・接続詞なので、副詞のyetを使う。
- (7) 無生物主語構文。seeは時代や時間を表す語句を主語にして「～を目撃する」の意。

V

- 正しい語順は次の通り。
- (1) Check to (make sure that you don't leave anyone off) the list.
- (2) I finally (hit on the solution after ten years of) experimenting.
- (3) John was (so furious that he handed his letter of) resignation in the next day.
- (4) The police officer (saw him stealing the car and went after) him.
- (5) I just want to get the (job interview over with so I can stop) worrying about it.

英語〔前期A方式 1/30〕

I

文脈把握を中心とする長文読解問題。テーマは「日本の鉄道」。

- (1)・(3)は本文中の語句の意味を問う問題。下線部の前後の文脈も正確に理解しているかが問われている。
- (2)は文脈を把握して空所を補う問題。「最初の鉄道は、イギリスの援助()作られた」という文脈。using「～を使って」とする。
- (4)は本文中の語句の説明としてふさわしい選択肢を選ぶ問題。下線部は「垂直統合」の意で、異なる業務をすべて1つの企業で行う事業方式のことだが、日本の鉄道システムがこの方式をとっていると述べられている。第5段落最終文に「これらの部分を別々に所有、運営している国々と比べて」とあり、日本がこのような国々と対照的であることを読み取ると正解を選びやすい。
- (5)・(6)は本文中の記述の内容として適当な、または適当ではない選択肢を選ぶ問題。(5)は第6段落第3文を照合する。(6)の①は第4段落第1文、②は第4段落第3文、④は第3段落第2文の内容と合う。③は第2段落第1文および第3段落第2文の内容と合わない、これが正解。

II

文脈把握を中心とする長文読解問題。テーマは「数の表記法」。

- (1)・(3)・(5)・(6)・(7)は空所を補う問題。前後の文脈も正確に理解しているかが問われている。
- (2)・(4)は本文中の語句が指すものとして適当な選択肢を選ぶ問題。前後の文脈から指示語が表すものを見つける。
- (8)は内容一致問題が3問。それぞれの設問や選択肢で与えられている英文をもとに、キーワードを本文中から見つけ出してその前後を正確に読み取り、適切な選択肢を選ぶ。1.は第2段落第6～最終文、2.は第2段落第2文、3.は第3～7段落を照合する。

III

会話文の空所補充問題。待ち合わせて合流した3人が携帯電話

の使い方について話している場面。会話全体の文脈を押さえたうえて、空所の前後を丁寧に読み取って、会話の流れに沿った1文を選択すること。

IV

- 標準レベルの文法・語法・熟語が問われている。
- (1) 空所のあとに主語が欠けているので、名詞 problems に主格の代名詞 whichが続くものを選ぶ。blame A for Bで「AをBのことで責める」の意。
- (2) be up to ~で「～をたくらんでいる」の意。前置詞 toの目的語が欠けているので、関係代名詞 whatを用いる。
- (3) tend to doで「～する傾向がある」の意。ここでは「どちらかと言えば(賛成である)」という意味合いで使われている。
- (4) make a claimで「主張する」の意。the claims of corruptionを過去分詞句が後ろから修飾する形にする。
- (5) 〈There + be動詞 + 名詞 + 現在分詞〉で「(名詞)が～している。」の意。ここではa surpriseが名詞。
- (6) each ofには〈限定詞 + 複数名詞〉か複数代名詞が続く。
- (7) 仮定法過去完了の文。主節の動詞は〈助動詞の過去形 + have + 過去分詞〉の形。

V

- 正しい語順は次の通り。
- (1) They really (go in for any kind of outdoor activity).
- (2) I am (furious about the way she talks down to) me!
- (3) I was surprised when she (came through with front row tickets just like) she said she would.
- (4) Only (a few of the students in this class) were aware of the news.
- (5) Just (be straightforward with me and explain what's going) on.

英語〔前期 B 方式 1/31〕

I

文脈把握を中心とする長文読解問題。テーマは「海藻由来の包装素材」。

- (1)は空所を補う問題。look to ～で「～に目を向ける」の意。
 (2)・(3)・(4)は本文中の語句・表現の意味を問う問題。語彙力や文脈から意味を推測できるかが問われている。
 (5)は内容一致問題が2問。それぞれの設問や選択肢で与えられている英文をもとに、キーワードを本文中から見つけ出してその前後を正確に読み取り、適切な選択肢を選ぶ。1.は第4段落最終文、2.は第8段落を照合する。

II

会話文の空所補充問題。Part 1 と Part 2 はひと続きの内容である。Gary が Don に、大雨に降られたときのことを話している場面。2 人の関係と会話全体の文脈を押さえたうえで、空所の前後を丁寧に読み取って、会話の流れに沿った 1 文を選択すること。

III

- 標準レベルの文法・語法・熟語が問われている。
 (1) 仮定法過去完了の文。主節の動詞は〈助動詞の過去形 + have + 過去分詞〉の形。make it to ～で「～に間に合う」の意。
 (2) the other day と過去の一時点を表す語句があるので、動詞は過去形にする。be taken ill で「病気になる」の意。
 (3) 〈主語 + wish〉には仮定法の節を続ける。next week とあるので、仮定法過去を用いる。
 (4) head for ～で「～に向かって進む」の意。

英語〔後期 3/8〕

I

文脈把握を中心とする長文読解問題。テーマは「地理的隔絶と日本人の独自性について」。

前期 B 方式と同様の構成、時間設定である。前期日程と同様、ほぼ本文の流れに沿って出題されている。

- (1)は本文の段落の内容に合致していない選択肢を選ぶ問題。①・②は第1段落第2文、③は第1段落最終文の内容と合う。④は第1段落第3文の内容と合わないの、これが正解。

(2)・(5)・(6)は空所を補う問題。前後の文脈を正確に理解しているかが問われている。

- (3)・(4)は本文中の語句の説明として適当な、または適当でない選択肢を選ぶ問題。(3)は第2段落第3～4文を照合する。(4)の①・④は第4段落第2文、③は第4段落第3文の内容と合う。②は本文で述べられていないので、これが正解。

II

会話文の空所補充問題。Part 1 と Part 2 はひと続きの内容である。Dale と Mike が話している場面で、主に同居人との食事や飲食店での出来事についての会話。空所の前後を丁寧に読み取って、会話の流れに沿った 1 文を選択すること。

III

- 標準レベルの文法・語法・熟語が問われている。
 (1) had better do で「～したほうがよい」の意。「～しないほうがよい」と言う場合は better のあとに not を置く。
 (2) 仮定法過去の文。主節の動詞は〈助動詞の過去形 + 動詞の原形〉の形。
 (3) work out は副詞句を伴って「～の結果になる」の意。work out だけで「うまくいく」という意味にもなる。
 (4) 主節の動詞から未来のこととわかる。時を表す副詞節の中な

- (5) next year から未来のこととわかる。時を表す副詞節の中なので動詞は未来形にせず、ここでは現在進行形を用いる。
 (6) 主節の will から未来のこととわかる。時を表す副詞節の中なので動詞は未来形にせず、ここでは現在完了を用いる。
 (7) get in touch with ～で「～と連絡を取る」の意。
 (8) rice は不可算名詞なので、複数形にしたり a few をつけたりしない。hardly で「ほとんど～ない」の意。
 (9) 可算名詞の movie を受けて、代名詞の a few が入る。
 (10) would rather do で「むしろ～したい」の意。
 (11) 〈It is time + 仮定法過去〉で「～してもよいころだ」の意。
 (12) 「～する機会」は a chance of doing か a chance to do で表す。pass up ～で「(機会など)を見逃す」の意。
 (13) 「(追加で)もう5分」などと言う場合は another を用いる。

IV

- 正しい語順は次の通り。
 (1) The (legal reforms are aimed at reducing financial crime).
 (2) Those misunderstandings (were cleared up after they talked about the) matter.
 (3) I've (thought up a great way to make more) money.
 (4) Mary (had an attack of hay fever and was) sneezing non-stop.
 (5) I'm saving a (little money each month to buy a new) bicycle next year.

- ので、動詞は現在形にする。
 (5) fall apart で「ばらばらになる」の意。
 (6) grow out of ～で「成長して～がなくなる」の意。文の前半が現在進行形で「彼の娘は難しい年ごろだ」という内容なので、後半は「すぐに成長してそれがなくなるだろう」と未来形にすると文意が通る。
 (7) research は不可算名詞。また、do research「研究する」の受動態なので、has been done が適切。
 (8) fancy doing で「～したい気がする」の意。
 (9) be supposed to do で「～することになっている、～しなければならない」の意。
 (10) look to do で「～しようと思う」の意。
 (11) look on the bright side で「明るい面を見る」=「いい方に考える」の意。パーティーが中止になったことを残念に思っている一方で、お金が節約できるとも言っていることから推測できる。
 (12) beyond ～で「～(の限界)を超えて」の意。
 (13) out of line で「失礼な」の意。

IV

- 正しい語順は次の通り。
 (1) They think they can (solve the problem by throwing money at it).
 (2) You (can make an early start tomorrow if you) like.
 (3) I (would have bought a car if I had) had enough money.
 (4) I (don't think food additives are good for our) long-term health.
 (5) Did you know that (the government has started to crack down on) fake luxury-brand goods?